

生活や生業を支える漁港周辺の構成要素に関する保存管理・整備の体制

準会員○藤田晃亘*1 正会員 姫野由香*2 同 西悠太*3
同 林孝茂*3 同 濱田菜波*3 準会員 寺尾勇*1

1.都市計画－6.景観と都市デザイン
保存管理や整備 重要な景観構成要素の候補

1 はじめに

1-1. 研究の背景と目的

2005年の文化財保護法改正以降、全国で、地域特有の風土や人々の生活・生業、文化などにより形成される重要文化的景観の保護が行われてきた。重要文化的景観の保護のためには、文化財保護法に基づく文化的景観保存計画を策定し、文化的景観を構成し得る景観構成要素の保存管理や整備の方法、体制を定める必要がある¹⁾²⁾。

現在、大分県姫島村では、昔ながらの漁業集落や離島特有の風土、生活・生業による独自の景観を、重要文化的景観として保護しようという取り組みが始まっている。

姫島村を対象とした既往研究として、林ら³⁾は、住民へのヒアリングや文献調査から、文化的景観を構成し得る重要な景観構成要素の候補を明らかにしている。しかし、それらの具体的な保存管理、整備の方法、体制については明らかにされていない。また、姫島村のサステイナブル・コミュニティに関する研究として、安藤、濱田⁴⁾⁵⁾は、「漁港周辺」が住民にとって公共性の高いコミュニティ空間であり、生業に必要な機能を有する重要な空間であることを明らかにしている。

そこで本研究では、文化的景観保存計画策定を目指す大分県姫島村において、漁港周辺を構成する重要な景観構成要素の、保存管理や整備の方法と体制の現状を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の方法

大分県姫島村における既往研究³⁾⁴⁾をもとに、生活や生業を支える漁港周辺の特徴的な、重要な景観構成要素の候補を抽出する。そして、それらの利用のされ方や、地区ごとの機能の違いを整理した。次に、南浦地区の集落構成において、それらを含む重要な景観構成要素の候補がどのように立地しているのかを明らか

かにした。さらに、それらの要素の管理や整備がいかなる主体により行われ、どのような方法で、また、どのような体制で行われているのかを明らかにする。

2 対象敷地

大分県姫島村は、大分県国東半島北東部に位置する離島であり、7つの地区で構成されている。漁業を基幹産業としているが、年々漁師の数が減少している⁶⁾。

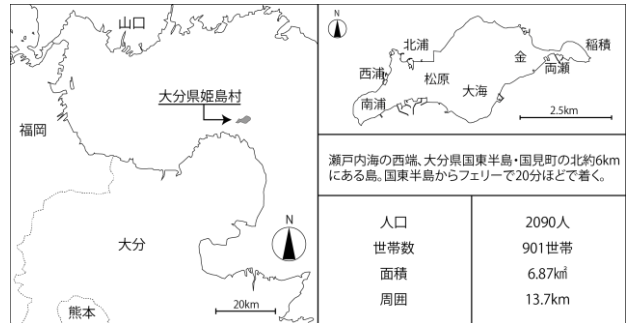


図1 姫島の位置とその概要 (2018年)

3 重要な景観構成要素と生活生業の関係

3-1. 調査対象となる重要な景観構成要素の特定

姫島村の基幹産業は漁業であり、それらに関する要素は、生業を支えるうえで特に重要であるといえる。そこで(1)林ら³⁾の既往研究により抽出された、生活や生業に関わる31件の重要な景観構成要素の候補のうち、漁業に関係する要素を抽出した。また、安藤ら⁴⁾の既往研究では、漁港周辺には生活や漁業を支える社会共通資本^{注2)}が、1970~90年代の基盤整備事業^{注3)}以前から、その形を変えながら存在し続けていることを明らかにしている⁴⁾。つまり、漁港周辺は、姫島村の生活や生業を支える重要な空間であるといえる。そこで、(2)漁港周辺に1970~90年代の基盤整備事業以前から存在し続け、生活や生業の機能を支える社会共通資本を要素として抽出する。以上のことから、本研究では、(1)(2)に該当する要素として、【漁具倉庫】、【漁業作業所】、【見張り小屋】、【公民館】、【盆坪】、【恵比須社】を調査対象とした。

3-2. 調査対象の特徴

【漁具倉庫】は漁師が漁で利用する漁具の収納に利用される。【見張り小屋】は漁師が漁に出る前に海の荒れ具合を確認する際に利用される。また、漁の前後に漁師が雑談をしたり、漁に関する情報交換をするなど、漁師の寄り合い所としても利用される。【公民館】は普段から地区の人々の寄り合い場所として利用される他、祭事の際に、準備やその後の宴会を行う場所として利用される。また、姫島村の主要な祭事の1つである盆踊り^{注4)}の準備を行う場所としても利用される。

【盆坪】は盆踊りや船曳祭^{注5)}の際の会場として利用される他に、ゲートボールなどのレクリエーションの場として利用されている。【恵比須社】は、主に年に1度行われる恵比須祭り^{注6)}の際に、各地区ごとで漁師が参拝する⁷⁾。

調査対象の各地区での「機能」を表1に示す。表1より、姫島の祭事や慣習に関する重要な景観構成要素の候補である【盆坪】、【公民館】、【恵比須社】は各地区に存在していることがわかる。西浦地区と松原地区、大海地区では、【漁具倉庫】と【漁業作業所】の機能が統合され、漁具倉庫として立地している。また、南浦地区では、【漁業作業所】と【見張り小屋】が統合され、集会所と呼ばれている。集会所は、漁師が作業をしながら語らいをする場所としても利用される。

以上のことから、地区ごとに、漁業施設の機能を可能な限り重複させ、施設整備していることが分かる。

表1 各地区に存在する調査対象の「機能」と「施設名」

調査対象	地区名						
	西浦	北浦	南浦	松原	大海	金	稻積
漁業施設	漁具倉庫	○	○	○	○	○	○
	漁業作業所	○	○	○	○	○	○
	見張り小屋	○	○	○	○	○	○
盆坪	○	○	○	○	○	○	○
公民館	○	○	○	○	○	○	○
恵比須社	○	○	○	○	○	○	○

* 施設機能が存在する(○)、施設機能が存在しない(-)
統合されている施設枠

4 南浦地区における重要な景観構成要素候補の立地

南浦地区にはフェリー乗り場があり、姫島村6地区のうち、南浦地区は姫島村の玄関口となっている³⁾。

このことから、南浦地区の漁港周辺は生活や生業を支えるうえで特に重要な空間であるといえる。以上を踏まえ、南浦地区の重要な景観構成要素の候補の立地状況を分析する。

既往研究³⁾で抽出された、南浦地区における、重要な景観構成要素の候補^{注7)}の位置関係を、図2に示す。

南浦地区では、集会所が公民館や盆坪と隣接して立地している。そのため、漁業に関する集会所も恵比須祭や盆踊りなどの祭事が行われる際に、宴会場として利用される。

姫島村の玄関口である南浦地区には、調査対象(①~⑤)と、漁業に関する施設として「畜養施設」(a)や「漁協事務所」(b)が漁港周辺に立地している。



1. 【漁具倉庫】

2. 【集会所】



3. 写真奥【公民館】 手前【盆坪】

4. 【恵比須社】

写真 南浦地区の調査対象

セド^{注8)}には、街区内の移動の利便性を図るために網目状に走るものと、集落から漁港へと最短経路で往来するために伸びるものが確認できる。

一方、農協事務所や商工会事務所、農業倉庫は、集落北側の道路付近に立地している。図2北側の道路は北浦地区との境界であり、1957~1980年の社会基盤整備⁴⁾に伴い、姫島村の行政施設や公共施設、各地区を結ぶ道路として整備された。沿道には派出所や村役場、学校などの施設が建設されている。農協事務所や商工会事務所、農業倉庫もそれらの施設と同様に、集落北側の道路付近に立地していることが分かる。

以上より、地域の主な生活や生業を支える要素は漁港周辺に存在している。一方で、1957~1980年の道路整備に伴い建設された、行政や公共施設は集落北側の沿道に立地していることが分かった。また、セドは集



図2 南浦地区の集落構成と重要な景観構成要素の立地図

落内における移動の利便性向上と、集落から漁港までの最短経路としての機能に分かれることが分かった。

5 漁業施設などの保存管理・整備の実態

本章では、図3を用いて調査対象の保存管理や整備の体制・方法や、それにかかわる費用の関係について明らかにする。

5-1. 調査対象の保存管理や整備の方法と体制

調査対象の漁業施設は村によって建設された。所有者は漁協であるが、日々の管理は、地区ごとの漁師全員で構成された浦浜会計という組合に漁協から委託されている。

南浦地区の集会所の管理や整備の方法は、施設内の清掃と、建物の修繕である。清掃の日程や担当は決められておらず、不定期に行われる。建物の修繕は、浦浜会計の漁師たちが行う。これらの漁業施設の保存管理や整備、施設運営の費用として、毎年行政から3~4万円程度の補助を受けている。不足分については、浦

浜会系の漁師から徴収されている。さらに、浦浜会計の漁師1人につき漁獲高の5.5%を浦浜会計が徴収し、漁業施設の使用料として、漁業組合に納めている。

また、恵比須祭りや盆踊りなどの祭事の運営費用も、漁師の漁獲高の一部から支出している。

【恵比須社】や【公民館】、【盆坪】は村が所有しているが、【恵比須社】は浦浜会計が、また、【公民館】や【盆坪】は、各地区の区長や駐在員、地区住民からなる自治会が管理や整備を行っている。それぞれ祭事に合わせて清掃が行われており、特に【公民館】や【盆坪】については祭事の際以外で年に2回程度、自治会により清掃が行われている。これらのことから、調査対象の漁業施設や【恵比須社】は浦浜会計が、生活を支える【盆坪】や【公民館】は、地区住民が管理や整備を行っていることが分かった。

5-3. 調査対象の保存管理や整備の現状の課題

ヒアリング調査より、管理や整備の課題として、漁

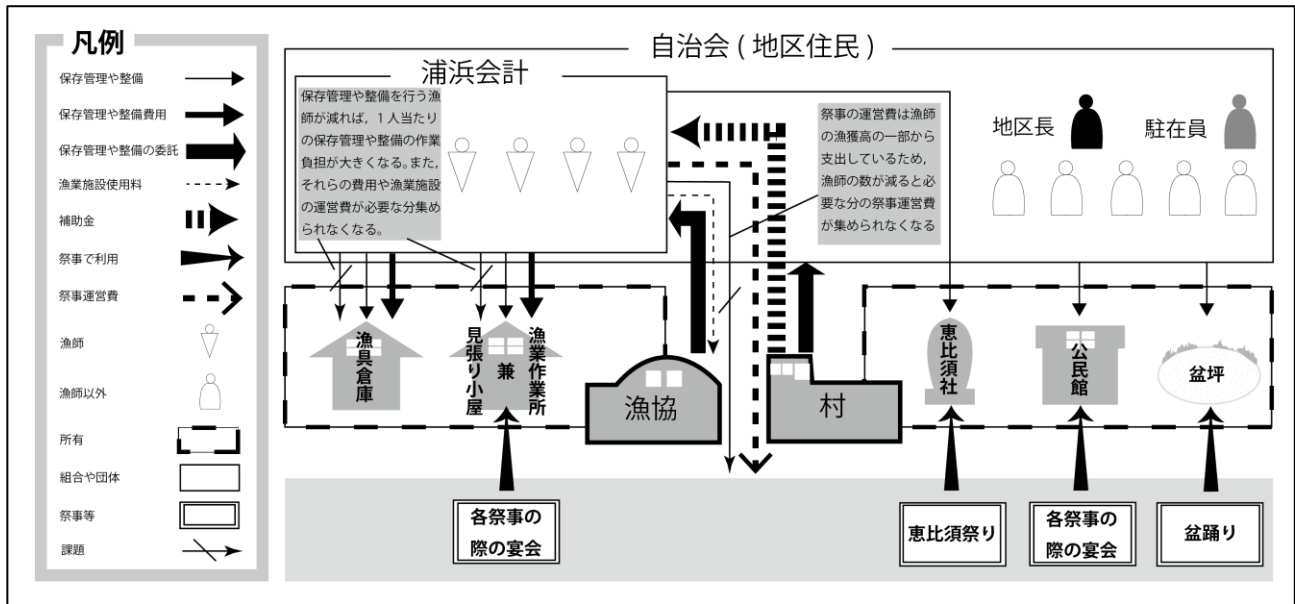


図3 南浦地区における保存管理や整備に関係する相関図

師の数の減少によって、1人あたりの費用負担や管理行為の負担が大きくなり不安であるという意見が挙げられた。これまでと同じ体制や方法では、管理や整備の現状の体制を継続することが困難であるということがわかる。管理や整備の現状の体制継続のためには、他の地区の浦浜会計と合同で管理や整備を行うなどの対策を検討する必要がある。

また、限定的ではあるが、村からの補助金を増額するなどして、浦浜会系の負担軽減を検討することも考えられる。

6 総括

本研究では、南浦地区における、重要な景観構成要素の候補の立地状況を把握し、調査対象の要素の管理や整備の方法、体制の現状を明らかにした。

南浦地区の重要な景観構成要素の候補のうち、地域の主な生活や生業を支える要素は漁港周辺に存在していた。また、農協事務所や商工会事務所、農業倉庫などの公共施設は集落北側の沿道に存在していた。

調査対象の管理や整備の方法、体制では、浦浜会計が、漁業に関する施設や【恵比須社】の管理や整備を行っていた。生活を支える施設は、自治会が管理や整備をしていた。しかし、現状の体制や方法では、人手不足や資金難が想定され、体制や方法の継続が困難であることが分かった。

今後は、この現状を踏まえ、保存管理や整備の方針を検討する必要がある。

【補注】

- 注1) 安藤論文では、姫島村において、相互扶助や業種、生業等により形成された人的ネットワークで構成された資本を指す
- 注2) 安藤論文では、姫島村において、河川や山林などの自然環境や、行政の政策・施策によって形成された資本を指す。
- 注3) 1957年に離島振興対策実施地域委に指定されて以降、姫島では1970～90年代にかけてインフラ整備が活発に行われた。
- 注4) 毎年盆の時期に姫島村各地区の盆坪で行われる。「アヤ踊り」、「キツネ踊り」、「銭太鼓」、「猿丸太夫」の5つの踊りがあり、国指定無形文化財に選定されている。
- 注5) 1905年ごろから毎年9月に行われる、大帯八幡社にある船を曳いて、歩く祭り。各区が毎年持ち回りで担当する。
- 注6) 年初めに恵比須様が祀られている恵比須社に、その地区の漁師全員で豊漁祈願を願って参拝に行き、料理などをお供えする。
- 注7) 図2に見られる、生業である漁業や農業に関する要素と、その他の祭事や慣習に関する要素、商業に関する要素や神社、セド
- 注8) 姫島村教育委員会へのヒアリング調査による

【参考文献】

- 1) 今村洋一、岡崎篤行「重要文化的景観における重要な構成要素の保護実態」、日本建築学会技術報告集、第18巻、第40号
- 2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 2015「文化的景観資料集第3集文化的景観保存計画の概要(Ⅲ)」
- 3) 林孝茂、姫野由香、牛苗、大堂麻理香、安藤万葉、西悠太「大分県姫島村における生活・生業における重要な景観構成要素の特定」大分大学工学部福祉環境工学科建築コース卒業論文、2017
- 4) 安藤万葉、姫野由香、牛苗、「集落の社会関係資本・社会共通資本からみる サステナブル・コミュニティの理想に関する基礎的研究 一大分県姫島村におけるケーススタディー」大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程修士論文、2017
- 5) 濱田菜波、姫野由香、牛苗、安藤万葉、林孝茂、西悠太「地域の風土や生活・生業と関係する集落構成の特性 一大分県姫島村西浦・大海地区におけるケーススタディー」大分大学工学部福祉環境工学科建築コース卒業論文、2018
- 6) 離島統計年報(1990年版(1990年)、1995年版(1996年) 日本離島センター)
- 7) 姫島村教育委員会「姫島村史」、1986

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士(工学)
 *3 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生

Undergraduate Student, Oita Univ.
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 Doctoral Course, Oita Univ.